ちいさな証

これまでの恵みを思い起こして

井ノ上歌歩

スイス日本語福音キリスト教会

昨年八月末に留学を始めてから、七か月が経とうとしています。語学力はままならず、音楽性も未熟なわたしが、ここまで留学生活を続けてくることができたのは、ひとえに、神様のあわれみと恵みによります。主の御名を心からほめたたえます。

JEGの礼拝に出席したのは、ちょうど今から二年前でした。三月の第四聖日だったと思います。バーゼル音楽院への留学を考え、下見に来た時のことでした。礼拝で、マイヤー先生が熱くイスラエルについてお話しされていたのを覚えています。JEGの皆さんが温かく迎えてくださり、もしわたしがスイスで勉強することを神様が許されるなら、この教会に通うことになるのだろうなと思っていました。

それから時が経ち、日本の大学を卒業して、バーゼル音楽院への録音審査とオンライン面接に臨みました。ちょうどその頃、コロナの影響が世界中に広がっていった時期で、先のことは不安でしたが、自分が一番勉強したいと思っていた学校で学べることが決まり、主のあわれみを感じずにはいられませんでした。コロナのことがあり、本当に留学できるのか出国直前までわかりませんでしたが、元気に飛行機に乗り、なんとかバーゼルまでたどり着いて、留学生活がスタートしました。

わたしはクリスチャンの両親のもとで育ちました。小学四年生の時に、夏の教会のキャンプで洗礼を受ける決心をし、その年のクリスマスに洗礼を受けて、信仰の歩みが始まりました。教会に同世代はほぼいませんでしたが、ユース向けのキャンプに参加したり、高校では不思議とクリスチャンの同級生が与えられたりしたことを通して、日常の中で神様と向き合うこと、進路選択や受験という人生の大きな局面でも神様に信頼することなどを、少しずつ教えられてきました。

今回の、パンデミックのさなかに始まった留学生活ですが、これまでわたしの人生を導いてくださった神様は、スイスの地でも同じように、あわれみ深いお方でした。生活環境を整え、たくさんの尊敬する方々との出会いを与え、わたしが疲れ果てて倒れることがないように、主はたくさんのセーフティーネットを張ってくださいました。特に、JEG、バーゼルのインターナショナルチャーチ、バイブルスタディーグループ、学校でのクリスチャンたちとの出会いに、霊的、また精神的に、そして体力面においてさえ、支えられました。すべてが新しい環境の中で、ストレスを感じる場面も少なくなかったと思いますが、この半年間を振り返って思い浮かぶのは、感謝だったことばかりです。

努力することが本当に苦手なわたしですが、主が与えてくださることにひたすら感謝を持って受け取り、信頼し続けていきたいと思います。留学生活一年目を最後まで乗り越えられるかまだわかりませんが、約束を果たされる主にのみ期待をもって、歩みたいです。

「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。（創世記15:5）